

田無公民館(仮)活動室のご案内

田無公民館は令和3年4月から令和4年3月まで、耐震改修補強等工事のため休館します。この期間、公民館登録団体は、田無総合福祉センター3階の1室を「田無公民館(仮)活動室」として、利用することができます。

利用方法等は下記のとおりです。ぜひご活用ください。

【名称】田無公民館(仮)活動室

【所在地】西東京市田無町5-5-12
田無総合福祉センター3階

【広さ】約152㎡

【定員】40人

【利用できる期間】

令和3年4月1日～令和4年3月31日(予定)

【利用できない日】

毎月第2・第4日曜日

祝日

年末年始

【利用区分】

<第1区分> 9:00～13:00

<第2区分> 13:00～16:00

<第3区分> 16:00～18:30

<第4区分> 18:30～22:00

【部屋に備え付けてある備品】

机、イス、ホワイトボード、CDラジカセ、延長コード

※上記以外の備品が必要な場合は柳沢公民館へご相談ください。

【利用の制限及び利用上の注意】

①カラオケや楽器を使用する活動には利用できません。

②会議及び講演会以外でマイク・アンプを使用することはできません。

③音を出す活動の場合は窓を閉めて行ってください。30分ごとに5分間以上換気を行い、換気中は音を出さないでください。

④自動車での来館はご遠慮ください。荷物の運搬等で自動車を使用する場合は、柳沢公民館にご相談ください。

【予約方法】

公民館の部屋と同様に、公共施設予約サービスで申し込んでください。

①「田無公民館」の中の「(仮)活動室」を選んで申し込んでください。

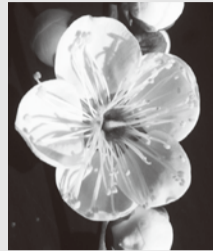
②2月1日から、4月利用分の抽選申し込みを受け付けます。

③随時予約の場合は、利用する日の2日前の16時までに申し込んでください。

2月に咲く花：市内でも見かける身近な花を紹介します。

2月の初め頃は一年の中で一番寒く、花の少ない時期です。その中で私たちを楽しませてくれるのが馥郁と匂ってくる春告花の梅(ウメ)と真紅で気品のある花、椿(ツバキ)です。

ウメ



「東風吹かばにほひおこせよ梅の花あるじなしとて春なわすれそ」の菅原道真の歌を思い出される方も多くでしょう。万葉集には、一番多くうたわれているハギ(141首)に次いでウメの歌が118首ほどあります。このうち、道真が流された大宰府の館の観梅の席で読んだ歌が32首あり、それをまとめた序文が、新元号「令和」の由典になりました。現在、日本人が花といえば桜ですが、当時は中国原産の梅が遣唐使などによって持ち込まれた時で、その珍しさに貴族たちがこぞって花といえば梅と愛でていたことが想像できます。

ウメは、実を収穫する実梅、花を愛でる花梅に分けられ、花梅の中でも紅梅、白梅、しだれ梅など品種は多彩ですが、植物分類上、ウメの和名はウメ1種(バラ科)だけです。サクラ(野生種)がヤマザクラ、オオシマザクラ、エドヒガンなど10種ほどあるのとは大違いです。

ツバキ

ツバキ(ヤブツバキ)は、ウメと違って古事記と日本書紀に登場し、学名にジャポニカがつく日本が誇る花木のひとつです。厚くて強い葉、艶のある葉に特徴があり、名前の由来にもなっています。ツバキの仲間(属)には、冬に身近で見えるヤブツバキ、日本海側に育つユキツバキ、晩秋から初冬に咲く基本は白色のサザンカ、チャノキなどがあります。ヤブツバキとサザンカには、花の咲く時季のほかにも違いがあります。ヤブツバキはカップ状に咲き、子房に毛がなく光沢があり、5つの花弁と花糸が着いたままポトリと丸ごと落ちます。これに対し、サザンカは平開して咲き、子房に銀色の毛があり、花が散る時バラバラになります。冬場に咲く通称カンツバキはサザンカ系の品種です。



文・写真 大森拓郎(新町在住)



①「廻遊・銀の泉」/アルミ合金、御影石/鹿田淳史
日本の廻遊式庭園からインスピレーションを得、歩き回ることによる多様な視覚的変化を体験できる作品。



②「EOLIA(エオリア)」/御影石/岡村謙史(きんじ)
ギリシャ神話の風の神・エオリアをモチーフに、ねじ曲げられた巨石が交錯して風を表現。



⑤「旅」/ブロンズ、ステンレススチール/峯田義郎
ブロンズと石を組み合わせたフォルムが、幼い日に見た空想への旅をイメージさせる。



⑦「SKY(スカイ)」/ステンレススチール/常松大純
シャープな直線と柔らかな曲線で構成され、空に向かい植物が生長するかのよう



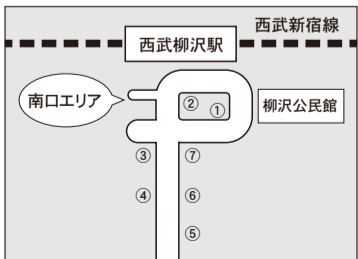
④「山の音・ARPA(アルパ)」/ブロンズ/吉田隆
作者がイタリア留学中に感じた世界を、アルパという堅琴に託し、音色を立体に表現しようと試みた。



③「四角柱」/黒御影石/湯村光
大きな黒御影石を割り裂き、再び積み上げて柱に。石に映る光景は断層により分割され、幻想を映し出す。



⑥「INERTIA(イナーシャ)」/ステンレススチール/大隅秀雄
自然の力や動力を使って表現するキネティック・アート(動く彫刻)。慣性(inertia)のままに動く翼で、風を形に変え、時間の概念を表現。



※彫刻名/素材/作者
作品解説(参考『HOYA MONUMENTAL』1994年 保谷市企画部企画課発行)

わが街をもっと知りたくて

ちよごと彫刻さんぽ

第1回 西武柳沢駅南口

西東京市には野外にたくさん彫刻があるのをご存知ですか。散歩の途中、ふと足を止めると、彫刻との思いがけない出会いが待っているかも。コロナで体も心もこもりがちなたったからこそ、街を歩き、身近なアートとふれあいましょ。

今回ご紹介するのは、西武新宿線・西武柳沢駅南口。駅前立つと、広場の中央にある高さ4mを超える巨大な彫刻が目に入り込んでいきます。「廻遊・銀の泉」と銘打たれたこの作品は、「泉」の名が示すとおり、以前は上から滝が流れ周囲に水をたたえ、行き交う人々の憩いの場となっていました。残念ながら現在は水が止まり泉はなくなっていますが、彫刻としての存在感はずいぶん大きいです。西武新宿線から南に向かう街路の両側には、計5基の彫刻が置かれています。御影石を積み上げた「四角柱」、堅琴を抱く「山の音・ARPA(アルパ)」、二人の幼子が遠くを見上げる「旅」、逆さにした自転車が空中に浮

ているような「INERTIA(イナーシャ)」、そして高く伸びる樹木をイメージした「SKY(スカイ)」。「こんなところにこんな彫刻が!」。驚きと共に、それぞれの作品の魅力に引き込まれ、しばし時間を忘れましょ。これらが制作されたのは1991〜92年。各地でアートを生かした魅力ある街づくりが展開される中、柳沢駅南口の再開発プロジェクトの一環として、新進気鋭の作家に柳沢の街にマッチする彫刻を依頼したそうです。以来約30年、作品は街並みに溶け込み、道行く人が直接アートの触れ合える機会を捉え、訪ね、お気に入りの作品を見つけてください。